

「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」ロジックモデル (R5年度要求額:57億円)

現状

・日本では起業(ユニコーン企業)が少ない ・近年、高い技術力や創造力を生かし、社会課題解決に向けて自ら起業する高専生が出始めている ・起業家が初めて起業した時の年齢層は30代までが7割を占める

課題

・高専生は15歳からものづくりを目指すエンジニアであり、「高い技術力」「社会貢献へのモチベーション」「自由な発想力」を有し、スタートアップ人材の育成に優位性を持つ。
・しかしながら、高専生にキャリアの選択肢として起業が知られてない、高専教員のみではアントレプレナーシップ教育が困難、特に高専生が自由にプロダクト開発など実践的な活動にチャレンジできる教育環境が未整備。

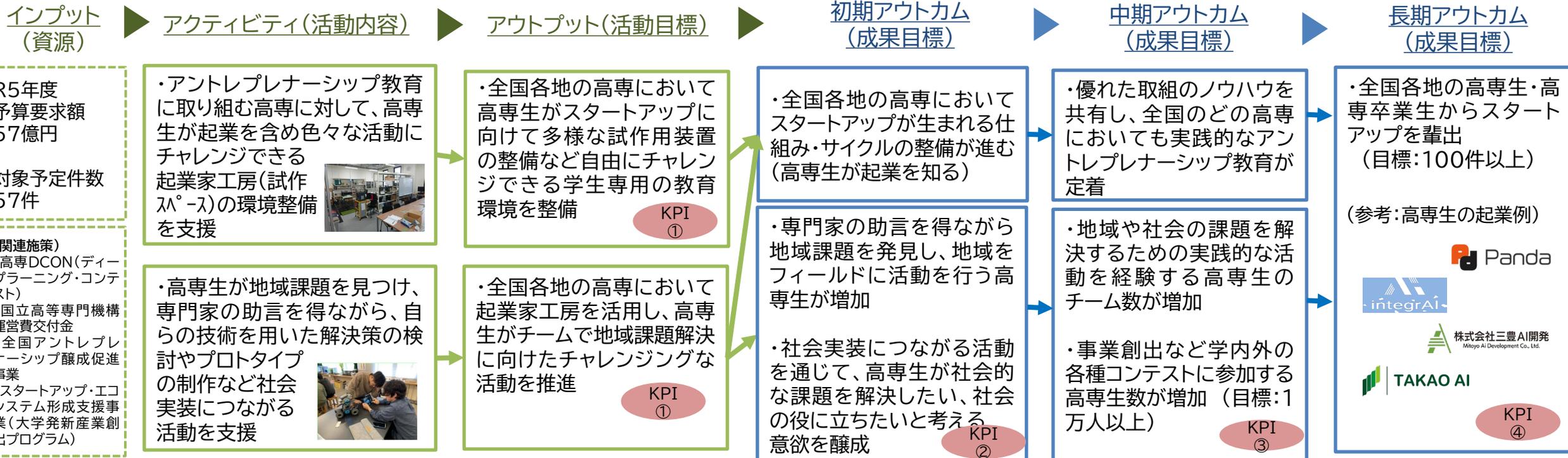
本事業の目的

全国各地に存在する高専を教育拠点として、地域に根差したスタートアップ人材育成を推進するため、高専生が専門家の助言を得ながら、技術力と自由な発想で集中して活動にチャレンジできる、起業につなげるための試作品の作成、議論の場となる学生専用の起業家工房を整備・支援し、高専発(卒業生含む)のスタートアップを促進

(現状・課題を示すデータ)

・初めて起業した時の年齢層
20代:34.8% 30代:38.4%
※(財)ベンチャー・エンタープライズ・センター「ベンチャー白書2021」より

・高専発ベンチャーの設立
H30:1件 R1:3件 R2:6件
・アントレプレナーシップ教育を実施する高専の状況
R2:9校
※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況」より



インパクト

・高専生の活動を後押しすることで、全国各地において高専からスタートアップ人材(起業家の卵)を育成・ユニコーン企業の輩出
・地域をフィールドにした活動を通じて、地域の社会課題解決や新たな産業の創出を実現するなど、地域の成長と活性化にも大きく貢献

測定指標と目標値

KPI ①
・本事業により整備した高専における起業家工房の数(R5年:57校)
・起業家工房で活動する高専生のチーム数(R5年:57、R9年:285以上)

KPI ②
・自らの技術を生かして社会課題解決にチャレンジしたいと考える意欲を醸成

KPI ③
・社会実装に向けたチャレンジの成果を試すため、学内外の各種コンテストに参加する高専生の数の増加 (R3年:約3千人⇒R9年:1万人以上)

KPI ④
・全国各地の高専において、高専生(高専卒業生含む)からスタートアップが生まれる数(10年後に100件以上)